

第2章 宗門の新たな取り組み

1 ビハーラ総合施設

1. ビハーラ総合施設の設立

現在、ビハーラ活動は、2,500名を超える会員を擁し、活動者養成研修会修了者も約1,300名となった。十分な研修を行うには座学だけでなく、実際にビハーラ活動を行っている民間施設での実習が必要となる。これには施設の協力が不可欠となり、これまで浄土真宗本願寺派関係高齢者施設連絡協議会の加盟施設をはじめ、ビハーラ活動の理念を基礎とした病院や高齢者施設などの協力のもと、研修・実習が行われてきた。

宗派がビハーラ活動を開始して約20年が経過した頃、さらなる活動を推進するためには、本願寺独自の施設設置が必要という意見が多くなり、結果、宗門のビハーラ活動のこれまでの歩みを踏まえ、その活動の拠点となる施設の開設が計画された。

その計画は「親鸞聖人750回大遠忌宗門長期振興計画」の重点項目のひとつ「社会的活動の展開」の「地域社会との交流」「現代社会への貢献」として、推進されてきた。

具体案として京都府城陽市に所在する本願寺所有の土地を活用して、①礼拝（寺院）・研修施設 ②医療施設（有床診療所） ③実践・実習施設（特別養護老人ホーム）を建設するという「ビハーラトータルプラン」が構築された。

ここに仏教・医療・福祉が連携するビハーラ総合施設の開設に取り組む流れができた。また、総合施設には龍谷大学をはじめとする宗門関係学校との連携をはかり、学生、教職員の教育・研修の場、さらには情報発信・交換の場としての役割を担うという期待も込められての計画であった。

そして2008（平成20）年4月、京都府城陽市においてビハーラ総合施設として2施設が開所された。

社会福祉法人本願寺龍谷会 特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺

〒610-0116 京都府城陽市奈島内垣内1 TEL：0774-54-0700

計11ユニット 施設入所100名 ショートステイ8名

〈法人理念〉

み仏の大悲に支えられていることを感謝しながら人々の悲しみ、痛みに共感する慈愛を育んでいきます。

〈ケア理念〉

あなたの笑顔を支え豊かな生活づくりに努めます。

〈ケア方針〉

傾聴 あなたの声に耳を傾け気持ちに寄り添います。

共考 あなたと一緒に考えます。

挑戦 わたしたちは諦めません。

一般財団法人 本願寺ビハーラ医療福祉会

独立型緩和ケア病棟 あそかビハーラ病院 〈当時 あそかビハーラクリニック〉

〒610-0116 京都府城陽市奈島下ノ畔3-3 TEL：0774-54-0120

現在入院28床 〈当時入院19床〉

〈基本理念〉

あそかビハーラ病院は
仏のお慈悲の「ぬくもり」の中
生かされて生きる「おかげさま」のところで
やすらぎの医療を実践します

〈基本方針〉

私たちは患者さん・ご家族の尊厳を守り、あたたかな配慮をもって対応して
いきます。
私たちは緩和ケアの実践力を高め、安全・安楽で質の高い医療を提供して
いきます。
私たちは互いを尊重しあい、多角的な視点をもって、質の高いチーム医療を
実践します。

〈活動方針（行動規範）〉

私たちは、「ぬくもり」と「おかげさま」に基づく信頼関係を大切にします。
あなたの身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦しみに耳を傾け、
あなたらしく生きられるように援助します。
あなたとご家族が望むときに、ご家族もケアに参加できるように援助します。
愛する人との別れからくる、ご家族の悲しみにも寄り添います。
他の医療・福祉施設や寺院と連携し、地域とともに歩む病院をめざします。
ビハーラの理念のもと、教育や研修に努めます。
限りある命のなかで、限りなき“いのち”の尊さ、その気づきを大切にします。

このビハーラ総合施設には、ビハーラの根幹となる仏教精神を象徴する空間があり、特別養護老人ホームビハーラ本願寺には「安穏ホール」という大きな仏間が、独立型緩和ケア病棟あそかビハーラ病院には「ビハーラホール」と呼ばれる礼拝空間がある。それぞれに朝夕のお勤めや恒例仏事において法要や仏教儀礼が行われており、利用者・患者、またその家族にとって大切な時間となっている。そして、両施設の間には庭園が整備され、親鸞聖人像がご安置された。今日も庭園を散歩される利用者・患者が手を合わされている。

2. ビハーラ僧の養成

ビハーラ総合施設においての大きな特徴は、利用者・患者のケアを行う僧侶が常駐していることである。海外においては常駐する宗教者はチャプレンと呼ばれており、主に患者、家族、スタッフの精神的、宗教的、スピリチュアルなニーズを支援している。同様に、ビハーラ活動の理念に基づいて、医療機関・福祉施設に医師、看護師、介護士といった方たちと協働する僧侶のことを「ビハーラ僧」と呼称している。かねてより、宗門の関係福祉施設や病院において、僧侶がスタッフとして携わっていたが、医療や介護の知識なくして、現場で活動することはできない。ビハーラ僧の活動の主な役割は、スピリチュアルな痛みに対するケアを行うことである。スピリチュアルな痛みとは、病気によって生じる人間存在の危機から生じる苦悩を意味している。ビハーラ僧は患者のそのような苦悩を聴き、「いのち」を見つめなおす援助を行うのである。

ビハーラ総合施設にかかる年表

年度	ビハーラ総合施設
2007 (平成19)	4月5日 ビハーラ本願寺 起工式 6月18日 あそか第2診療所 起工式 3月13日 ビハーラ総合施設入仏慶讃法要・竣工式
2008 (平成20)	4月1日 あそか第2診療所 (あそかビハーラクリニック) 開所 4月1日 特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺 開所
2014 (平成26)	4月1日 あそかビハーラ病院 開院
2015 (平成27)	4月1日 あそかビハーラ病院 緩和ケア病棟認可取得
2016 (平成28)	8月31日 大谷光淳ご門主様ビハーラ総合施設ご視察 2月9日 ビハーラ本願寺 居宅支援事業所 (ビハーラ本願寺ケアプランセンター) 開設
2017 (平成29)	6月22日 法人名を一般財団法人 大日本仏教慈善会財団より 一般財団法人 本願寺ビハーラ医療福祉会に変更
2018 (平成30)	4月30日 ビハーラガーデン親鸞聖人像のお迎え法要 11月7日 ビハーラガーデン整備・門扉の建設
2019 (平成31)	4月24日 ビハーラ総合施設創設10周年記念式典・祝賀会